



Photo:SMC/Iva Vili

# 地獄へも行きます。 あなたが 一緒なら

「ここにある」「あそこにある」と言えるものでもない。

実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。

ルカによる福音書 17章21節（日本聖書協会・新共同訳）

今年の春、引越しました。猫一匹を連れて。とうとう、我が家のペットも一匹になってしまいました。いつしか住みついた年齢不詳のメス猫です。しかし、そのじゃれっぷりや、毛並み、色つやからして、おそらくまだ若いでしょう。近所の飼い猫か、飼われないまでも、猫好きの人に世話されていたようで、避妊手術が施されていました。

いつの頃からか、我が家に遊びに来るようになったのです。最初は庭を徘徊したり、自家用車の屋根に寝そべったり。その段階で、こちらは親愛の情をこめて「お近づきになりましょうシグナル」を発信していました。やがて玄関先にまで来るようになりました。お行儀よくお座りしている様子がガラス戸越しにシルエットでわかりました。

そうすると、こちらはもうすっかり歓迎モード。玄関を開けておくと、顔だけ出し入れして中の様子をうかがい始めました。やがて、用心深く、全身を低く身構えて、家の中に侵入してくるようになりました。物音がしたり、気配を感じると、脱兎のごとく、退散していましたが、そのうちに「ここは安全」と認識したようです。ついには、差し出すえさも食べるようになりました。すっかり安心したのか、猫の仕事である居眠りまでするようになりました。という次第で、いつのまにか、近所の住人も認める、我が家の猫になりました。

出入りするようになった頃から、かつてに名前をつけて呼んでいますが、家族の中で、その名を統一

できないまま、今に至っています。しかし、不思議に、どの名で呼んでも、それなりの対応をしています。さすが、健全な利己主義者といわれる猫です。わたしは「チビ」と呼んでいます。普通の猫並みの体格ですが、最初出会った時の印象がとても小さかったからです。

チビにとっての悲劇は、わたしの転勤でした。連れて行こうかどうしようか、わたしたちはずいぶん迷い、考えました。チビにとって、どちらが幸せなのだろうかと。熊本から東京へ。緑一杯、空き地たくさん郊外の庭付き一軒家から、大都会の、大通りに面したマンション風の住まいへ。すきまだらけ、出入り自由の木造モルタル造りの家から、気密性ばっちり鉄筋コンクリート造りの「4LDK」へ。

引越し当初は、「人が変わった」というか、猫が変わってしまいました。目つきも、歩き方も、かつての我が家に入入りし始めた頃のそれでした。その姿を見るにつけ、胸が締め付けられる思いでした。「トイレができるようになれば」。これを一つの目処に、その時を待ちました。それができてからは、いつもの「チビ」になりました。「犬は人につき、猫は家につく」といわれたりしますが、かならずしもそうではないようで、要はきずな、信頼関係ということかもしれません。わたしたちの人生のゴールも天国でなくてもいいではありませんか。地獄に行ったとしても、そこに、「神共にいます」ですから。

M. T

